構　造　設　計　標　準　仕　様　書（木造用）

適用する場合は□欄に　■　印を記入する。

1.　建築物の構造内容

（１）　工事名称　ほのぼのホーム　建設工事
　　建築場所　東御市八重原字苗間久保 2151-2・2151-9

（２）　工事種別　■新築　□増築　□改築

（３）　構造種別
　■木造（W）

（４）　階　数
　地下　　階　地上　１　階　　塔屋　　階

（５）　主要用途　□一戸建ての住宅　■老人福祉施設（グループホーム）

（６）　屋上付属物
　□有　■無

（７）　増築計画　□有（　　）■無

（８）　付帯工事
　□門塀　□擁壁　□

（９）　特別な荷重
　□エレベータ　人乗（ロープ式　油圧式）　□リフト　KN

（１０）　その他

2.　使用構造材料

（１）　コンクリート

適用箇所	種　類	設計基準強度Fc=N/mm²	スランプcm	備　考
捨コンクリート	普通	■15,　□18	18	
土間コンクリート	普通	□18,　■21	18	
基礎、基礎梁	普通	□18,　■21,　□24	18	

（２）　鉄筋

	種　類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	■SD295A	D16以下	基礎・スラブ	■重ね継手 D１９以下
	□SD295B			
	□SD345	D19以上		□ガス圧接継手 D２２以上
	□			
丸　鋼	□SR235			□特殊継手
溶接金網	□			（　　）

3.　地　盤

（１）　地盤調査資料
■有　■地盤調査書を添付
　■敷地内　（□ボーリング調査　□平板載荷試験　■サウンディング調査）
　□近隣　（□ボーリング調査）
□無　（調査予定を（２）に記入）

（２）　地盤調査計画（調査予定）
□工事施工前に地耐力を確認してから施工する（基礎伏図にも同様に明記すること）
□ボーリング調査　□サウンディング調査　□標準貫入試験
□土質試験　□物理探査　□平板載荷試験　□

（３）　地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更することもある

（４）　ボーリング標準貫入値、土質構成　（基礎・杭の位置を明記すること）

深度	土　質	N値	標準貫入試験 10	20	30	40	50	60

○調査地番
　東御市和

○位置図（別紙でも可）

○支持地盤、地層及び深さについてのコメント

○孔内水位
　ＧＬ　－　　m

○近隣データの調査地番と設計地番とは約　　m の距離がある

○備考

4.　地業工事

（１）　直接基礎　□ベタ基礎　■布基礎　□独立基礎
　試験堀　■有　□無

深さ設計ＧＬ-0.60m　長期許容支持力度　４０ KN/㎡
支持層－礫質土、礫混じり粘性土　載荷試験　□有　■無

（２）　地盤改良　□有　■無
　一部分

5.　鉄筋コンクリート工事

（１）　コンクリート

■　コンクリートはJIS 認定工場の製品とし、施工に関してはＪＡＳＳ５による。

■　セメントは、JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。

■　調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

■　寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

■　フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。

■　構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（ＪＡＳＳ5Ｔ－603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また、打込み量が 150m³をこえる場合は 150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。

■　ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。

（２）　鉄　筋

■　鉄筋はJIS Ｇ3112の規格品を標準とする。

■　鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「公共建築工事標準仕様書」公共建築協会　各部配筋による。

（３）　型　枠

■　材料　合板厚12㎜を標準とする。

■　型枠存置期間

種類／部位／セメントの種類／平均気温／存置期間の		せき板 基礎、はり側、柱、壁 早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	せき板 基礎、はり側、柱、壁 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 高炉ｾﾒﾝﾄＡ種 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄＡ種	せき板 スラブ下、はり下 早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	せき板 スラブ下、はり下 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 高炉ｾﾒﾝﾄＡ種 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄＡ種	支柱 スラブ下 早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ	支柱 スラブ下 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 高炉ｾﾒﾝﾄＡ種 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄＡ種	支柱 はり下 早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ 高炉ｾﾒﾝﾄＡ種 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄＡ種
コンクリートの材令（日）	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		5N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85%		100%

6.　木工事

木工事は、次により行う。
□　木造住宅構造標準納まり図（在来軸組）（財団法人日本住宅・木材技術センター発行）による。
□　枠組壁工法用住宅標準納まり図（財団法人日本住宅・木材技術センター発行）による。
□　木造住宅用の防耐火構造標準納まり図（財団法人日本住宅・木材技術センター発行）による。
■　その他（　木造標準納図　　）

7.　設備関係

■　特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
■　設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
■　床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚さの1／3以下とし管の間隔を5cm以上とする。

8.　その他

■　諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■　各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■　必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

一　級　建　築　士
（　大臣　登録）　氏名　　印
第　　号

22. 9. 3 出力

滝　設　計　建築アトリエ
長野県知事登録　（上田）Ｈ 第 ４２２２２ 号
長 野 県 東 御 市 常 田　500-3　TEL 64－2465
管理建築士：滝澤　篤　一級建築士登録 第163926号

設計	製図	検図	事業名	令和 ４ 年度	図面名称	縮尺	設計番号
			物件名	ほのぼのホーム建設工事	構造設計標準仕様書	―――	図面番号 Ｓ－１
							日付 2022・８・３０